平成２４年　５月２８日（月）

倉吉市議会
議長　谷 本 修 一　様

倉吉市議会
会派　未来・絆　共同
朝　日　等　治

去る平成２４年５月２４日木曜日から同月２６日土曜日までの３日間、つぎの通り行政視察を行いましたので、関係書類を添付し復命いたします。

# 復　命　書

記

１．テーマ
「医療・介護予防のための温泉療養及び地域づくりにつながる温泉療養保健制度」

２．分　野
産業（温泉）振興・観光・医療費抑制・介護予防

３．期　間
自：平成２４年５月２４日（木）　至：平成２４年５月２６日（土）　３日間

４．内　容

……【第１日目　５月２４日（木）１４：００～２０：００】……

●熊本県菊池市役所・菊池南中学校・望月旅館

●『温泉とプールを活用した保健事業の取り組みについて』

熊本県菊池市にある菊池温泉は、年間宿泊客数約３０万人、泉質は弱アルカリ性の温泉地であり、本市の関金温泉同様、ＮＰＯ法人温泉と健康フォーラムが認定する日本の名湯百選に選定されている。

同市では市民を対象に、市内の教育施設のプール及び温泉旅館の浴場を活用した水・湯中運動教室を実施し、医療費の抑制及び介護予防を図っている。

医療費の抑制効果は顕著であり、教室参加者の対比ではあるが、医療費ベースで平成２２年度対２１年度が６７％と大きく縮減していることからも理解できる。

当日の視察は、株式会社パルフィトシステムがインストラクターを務め、同市の保健事業から結成に至ったサークル「アクアフレンズ」の方々の水中運動教室の見学とヒヤリングから始まった。

次いで、水中運動教室の基礎原則と疾病に対するアプローチ方法の実際及び関節症対応の水中メソッドの２点についての水中運動療法を、市立菊池南中学校のプールにおいて体験した。

水中運動療法体験後は同市庁舎へと移動し、担当職員前田氏より「菊池市の温泉を活用した保健事業の取り組み」について及び株式会社パルフィトシステムのインストラクター古賀氏より「温泉療法地戦略による地域振興（保健事業と地域産業の連携）の仕組みと実際」について講演を受ける。

講演後は望月旅館へと移動し、株式会社パルフィトシステムのインストラクター古賀氏より、湯中運動療法及び湯上り体操を同旅館の大浴場において体験する。

以上が菊池市における視察研修の内容ではあるが、本市においても実現可能と考える。

本市には関金温泉があり温泉施設も整っている。教育施設としてのプール、市民温水プールも整っている。

同市と同様の取り組みを進め市民の健康づくりに寄与し、医療費を抑制していくためには、まずは本市行政の決断と部局を超えた連携と旅館組合等との連携が必要だと考える。

……【第２日目　５月２５日（金）１０：３０～１９：００】……

●大分県竹田市長湯温泉街・同市直入支所

●『「温泉療養保健制度」と「現代版湯治文化」』日本一の国民保養温泉地を目指して～大分県竹田市の実証実験～

大分県竹田市は、同市ならではの地域力、人間力、行政力をフルに発揮して行こうとする運動体として、挑戦・オリジナル・オンリーワン・プロジェクトを基軸とした同市独自の政策展開を推進しており、その中核的プロジェクトとして市内温泉地での一定期間以上の宿泊について公的助成する「温泉療養保険制度」に昨年度から取り組んでいる。

また、長い歴史を有する城下町の再生や同市の先人の縁を介したドイツやロシアの諸都市との「ローカル外交」とともに、歴史・文化などの地域資源に立脚しつつグローバルな視野からまちづくり戦略を展開していることも特徴といえる。

当日は、本市の日帰り入浴施設「湯命館」と類似の施設、温泉療養文化館「御前湯」の視察からスタートした。

同施設を後にし、同市直入支所から開催された株式会社ＰＨＰ研究所主催のシンポジウム「温泉と地域づくり」に出席した。シンポジウムのテーマは『「温泉療養保健制度」と「現代版湯治文化」』日本一の国民保養温泉地を目指して～大分県竹田市の実証実験～。首藤勝次竹田市長の挨拶の後、環境省大臣官房参事官大庭一夫氏による「湯治文化の再生に向けて～竹田市の取組みへの期待～」についての講演を受け、続いて同温泉区域内に医院を構える医院院長、温泉療法専門医でもある伊藤恭氏より「癒し資源の生活習慣病への応用～長湯温泉の効果について～」の基調報告を受ける。

引き続き、「温泉療養保健制度」と「現代版湯治文化」～竹田市の実証実験を事例に－可能性と課題－をテーマに、ＮＰＯ法人温泉と健康フォーラム常任理事の合田純人がコーディネーターを務め、パネリストとして日本温泉協会事務局長布山裕一氏、日本健康開発財団・温泉医科学研究所主任研究員後藤康彰氏、温泉と宿のライター野添ちかこ氏、竹田市商工観光課課長林寿徳氏によるパネルディスカッションが行われた。

昨今の厳しい経済・社会環境の中でも、地域の潜在力を遺憾なく発揮しようとする同市の挑戦は、刺激と学びに満ちており、同市の「温泉療養保健制度」と「現代版湯治文化」は実現しているといえ、行政を核としたその取り組みは今後も広がりを見せていくといえる。

本市においても「温泉療養保健制度」については、現行の医療制度と温泉療養に係る医療を精査し研究することでその実現性は深まるものと考えられる。

また「現代版湯治文化」についても、関金温泉旅館組合等との連携・協議によってその実現は遠いものではないと強く感じた。

……【第３日目　５月２６日（土）９：００～１０：１０】……

●大分県竹田市直入支所

●『日本一の国民保養温泉地を目指して～竹田市の地域づくり構想～』

視察最終日は、首藤勝次竹田市長から標記についての講演に出席した。

前日のシンポジウム及びパネルディスカッションにおいて、同市の地域づくり構想のフレームについて理解していたため非常にわかりやすかった。

首藤市長におかれては、同温泉に生まれ、同町の行政職員となり企画・広報・国際交流・文化振興等を担当され、その後県議に就任されている。

全国の自治体でありがちな縦割り行政から手法を変えると同時に、長湯温泉に生まれた自らの使命として取り組んでこられた、温泉を活用した地域づくりにはかなりの力強さを感じた。

しがらみや既成概念にとらわれず、行政が大きく方向転換する場合、行政の長である首長の政治的な判断が求められると同時に、それを促し、決断させる議会の役割の重要さを感じる講演であった。